

第二回「楽しく議論する」(2010/10/09)

場所：クラインブルー

司会、文責：野田

要約：一口に議論といっても、意見交換や意識合わせ、交渉、相談等状況によって意味するものが微妙に異なる。異なった意見について、お互いに説明を十分に行うということが、色々な「議論」の共通点のようです。

背景：「議論」はそれなりに重要だが、高校までの学校教育では殆ど教えない。「議論」が何を意味するか、人によって考え方がずれていたら、上手く「議論」出来ないかもしれない。

1. 手始めに、仕事に行う議論について話し合いました。
 - ・意見交換、意識合わせ、賛否を合わせる
 - ・ゴール、ゴールを評価する前提条件（ものさし）がはっきりしている
 - ・交渉の場合、お互いが提示する選択肢は適切か、双方にとってより適切なものがあるかを議論する
 - ・感覚的な議題（デザインとか）に関する方向合わせ
 - ・科学の議論
 - ・真実かどうか、証明できるか
 - ・みなが納得したり、合意するわけではない
2. 仕事の中の議論におけるよい議論とは何か話し合いました
 - ・意見を集約出来ること。
 - ・選択肢の中からお互いが受け入れられるものが選択されること（交渉）
 - ・色々な観点の意見を聞けること。交渉と違って妥協はしない。自説を十分に論証できて、みなに認められた場合。（科学）
 - ・感覚は伝えにくいので、伝えられること。意見交換の中で、方向性を出せて、自分の頭の中がすっきりする場合（感覚的な議論の場合）
3. 次に、生活の中での議論に話題が移りました。まず、具体的な事例の話がありました。
 - ・買い物をするか決めかねている家族から相談を受けた。受けた側は特に強い意見を持っていない。
 - ・複数の知人と政治的な議論をした際に、自説を繰り返すばかりの人がいて、考えの背景を知ることが出来なかった。
 - ・友達と旅行先を決める場合。
4. 生活の中の議論の特徴とは何か話し合いました。
 - ・職業的議論と違って、前提条件が共有されていないことが多い。

- 意見が一致していたら議論とは言いにくい。議論というには意見が異なること、それなりに長時間話合うことが必要。結論の厚みがある程度ないと議論とは言いにくい。
- 話し合うことで、一人では思いつかなかった道を辿ることが出来ると良い議論である。

異なる意見について、お互いに説明を十分に行うということが、色々な「議論」の共通点のようです。議論には目標があって、合意することが目標であるとの意見と、合意が目標であるとは限らないという意見がありました。